

# あいち農産物生産流通レポート

令和元年7月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 頭上散水によるきくの高湿対策技術を開発 (農業総合試験場)	1
・ 東京都中央卸売市場における平成30年産の愛知県産農産物の動向 (東京事務所)	2
◎ 地域トピックス	
・ あいち型植物工場推進事業によるあぐりログ等の導入 (尾張農林水産事務所)	4
◎ 東日本情報	
・ 企業経営視点で、野菜を買うサイフが変わる (東京事務所)	5
◎ 西日本情報	
・ あいちの豚肉応援フェアを開催しました (食育消費流通課)	7
◎ フラワーページ	
・ 小ぎくの群馬県オリジナル品種「小夏シリーズ」に新品種が登場 (群馬県東京園芸情報センター)	9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切り花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	24

## 内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】  
農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】  
全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」  
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>  
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」  
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】  
農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】  
総務省統計局「小売物価統計調査」  
[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?\\_toGL08020101\\_](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_)

を御覧ください。



## 頭上散水によるきくの高温対策技術を開発

農業総合試験場

夏季のきく施設栽培では、高温による開花遅延や生育不良、生理障害などが発生し、安定生産の妨げとなっています。高温対策として、ヒートポンプによる冷房や微粒ミスト装置による気化冷却が有効ですが、これらは機器費用が高く導入しづらいことが課題です。

このため、きく栽培ハウスで導入が進んでいる「頭上かん水装置」を活用し、夏季の日中に少量多頻度で頭上散水し、気化冷却を利用する高温対策技術の開発に取り組みました。

### 1 頭上散水による冷却効果

きく栽培ハウスで散水後の室温推移を調べたところ、散水直後に葉温は低下し、約 40 分後には室温や葉温が散水前の温度まで戻りました。そこで、夏季の 8～15 時の間に 40 分毎に 30 秒～1 分の散水を行ったところ、散水を行っていないハウスと比べて、室温が約 3～5℃低下し冷却効果が認められました (図 1)。



頭上かん水装置

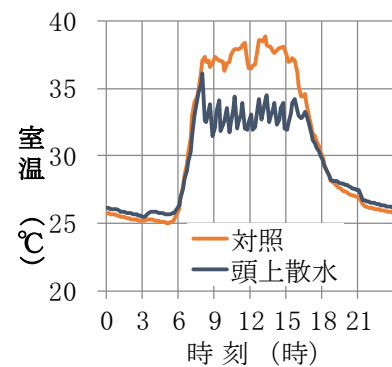


図 1 頭上散水による施設内の気温変化

### 2 頭上散水ときくの生育

2018 年 9 月上旬の開花作型で、8～15 時の間、40 分毎に 30 秒の頭上散水を行ってきくを栽培したところ、草丈が伸び、切り花全重が重くなり切り花品質が向上する傾向が見られました (図 2)。また、他の作型ではきくの開花遅延を軽減する効果が確認されました。



図 2 頭上散水と生育の違い

### 3 頭上散水と高温時の生理障害 (黄斑点症状)

スプレーきくの一部の品種では、高温により葉に黄色い斑点が発生する生理障害が見られることがあります。頭上散水処理により黄斑点の発生が大幅に抑制されました (図 3)。

既設の「頭上かん水装置」を利用する高温対策技術は、新たな投資を行うことなく、生育促進や、高温障害の抑制など、夏季のきくのプロダクション向上を図ることが期待できます。

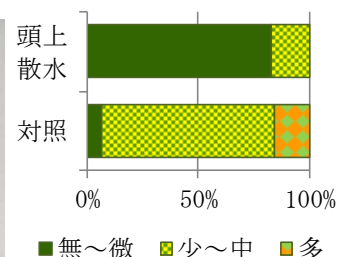


図 3 黄斑点症状と頭上散水による発生程度の違い (写真の発生程度は中)

## 東京都中央卸売市場における 平成 30 年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーションG

平成 30 年産（平成 30 年 1 月から 12 月まで）の東京都中央卸売市場（9 市場）での愛知県産農産物の総取扱額は 332 億円（シェア 5.1%）で 47 都道府県の中で第 6 位でした。

また、総取扱額の内訳は野菜が 199 億円（前年対比 98.9%）、果実が 20 億円（同 99.7%）、花きが 113 億円（同 96.2%）となりました。

### 1 野菜

東京都中央卸売市場全体の野菜取扱額は 3,887 億円で、前年比 99.8%と概ね前年並となりました。

本県産について、キャベツは、平成 29 年秋の長雨や冬の低温・乾燥の影響を受け、全国的に年明けの入荷量が激減し、単価が高騰する中で、入荷量の維持に努めた本県産の取扱額は前年をかなり上回りました（表 1）。トマトは、年明けからの入荷増に加え、前年末の高値反動で荷動きが悪く、販売に苦戦する年となりました。ブロッコリーは、平成 29 年秋の長雨による根傷みを引きずり、また寒波で生育が停滞して入荷量が伸びず、単価は高騰したものの、取扱額は前年を大幅に下回りました。

なお、秋以降の作柄については、7～8月の猛暑や9月の台風の影響が懸念されたものの全体的に生育への影響は少なく、単価も前年並から前年を下回って推移した品目が多くなりました。

こうした動きの結果、本県産の野菜全体の取扱額は前年並となりました。

表 1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	平成 30 年	前年対比	順位(シェア)*	上位産地
野菜合計	19,895,389	98.9%	6位(5.1%)	①茨城、②千葉、③北海道
キャベツ	6,494,618	111.8%	1位(31.6%)	②群馬、③千葉
トマト	2,573,323	92.2%	3位(8.4%)	①熊本、②栃木
ミニトマト	2,471,575	93.6%	2位(16.1%)	①熊本、③北海道
おおば	2,727,994	99.9%	1位(80.9%)	②茨城、③大分
ブロッコリー	1,160,943	79.4%	4位(10.2%)	①香川、②北海道、③埼玉

\*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

### 2 果実

東京都中央卸売市場全体の果実取扱額は 1,801 億円で、前年比 99.7%と概ね前年並となりました。

本県産について、いちごは、前年取扱額を上回る月と下回る月の両方がみられ、全体の取扱額としては前年をやや下回りました（表 2）。また、みかん類は、低温により冬期の入荷量が減少したことや、夏期のハウスみかんで猛暑による着色不良がみられるなど

の影響があり、取扱額は前年をやや下回りました。いちじくについては、施設物は順調だったものの、露地物は8月下旬の台風の影響で9月の入荷量が前年を大幅に下回るなどし、全体では前年並の取扱額となりました。

こうした動きの結果、本県産の果実全体の取扱額は前年並となりました。

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	平成30年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
果実合計	1,990,949	99.7%	19位(1.1%)	①栃木、②青森、③愛媛
みかん類	413,225	96.2%	8位(1.4%)	①愛媛、②静岡、③長崎
いちじく類	538,056	98.3%	1位(58.1%)	②和歌山、③福岡
かき類	417,987	110.3%	6位(7.3%)	①和歌山、②奈良、③福岡
いちご類	396,174	95.9%	9位(1.2%)	①栃木、②福岡、③茨城
メロン類	46,939	88.8%	11位(0.5%)	①茨城、②静岡、③熊本

\*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

### 3 花き

東京都中央卸売市場全体の花き取扱額は840億円で、前年比98.1%と概ね前年並となりました。

本県産について、切花は、平成29年冬からの低温で生育が遅れたものが、4月にまとまって入荷するなどして、単価を押し下げる要因となりました（表3）。その後も、7～8月の猛暑の影響を受け、輪ぎくでは8月の需要期に生育の遅れがみられたり、バラでは下位等級の発生が増えるなど、天候による影響が出た年となりました。また、観葉植物・鉢花・らん鉢については、対前年比で切り花以上に取扱額が落ち込みました。特にらん鉢については取扱額が大きく落ち込み、シェアも前年の4位から5位に順位を落とすなど、減少傾向となりました。

これらを受けて、本県の花きの合計取扱額は前年をやや下回りました。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	平成30年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
花き合計	11,317,995	96.2%	1位(13.5%)	②千葉、③埼玉
切花計	8,436,413	97.5%	1位(15.0%)	②千葉、③静岡
菊類	5,824,742	97.8%	1位(38.6%)	②沖縄、③茨城
ばら類	846,582	95.6%	1位(14.2%)	②静岡、③山形
カーネーション類	301,037	97.5%	3位(5.7%)	①長野、②千葉
観葉植物	1,182,933	95.2%	1位(35.0%)	②静岡、③沖縄
鉢花	559,105	88.4%	3位(11.1%)	①埼玉、②千葉
らん鉢	447,877	84.7%	5位(10.6%)	①埼玉、②栃木、③山梨

\*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

## あいち型植物工場推進事業によるあぐりログ等の導入

尾張農林水産事務所

J A 愛知西管内では、平成 29 年度に稲沢きく環境研究会（以下「きく研究会」という）、平成 30 年度に稲沢なす環境研究会（以下「なす研究会」という）があいち型植物工場推進事業により、炭酸ガス発生装置と環境モニタリングシステム「あぐりログ」等を導入しました。

あぐりログは、ログBOXを設置し、温度・湿度・炭酸ガス濃度などを5分毎に計測します。そのデータはパソコンやスマートフォン等でいつでもどこからでもハウス内の環境をチェックでき、グループ内でのデータ共有も可能です。



タブレットでデータチェック  
(頭上にあるのがログBOX)

### 1 導入装置の概要

きく研究会にはモニタリング装置 5 台、炭酸ガス発生装置 7 台及び循環扇 6 台、なす研究会にはモニタリング装置 4 台と炭酸ガス発生装置 5 台が導入されました。

きく研究会では、冬期のきくのボリュームアップ（重量増加）を目的に、会員ごとの栽培データから最適と思われる CO<sub>2</sub>濃度（450ppm）を設定し栽培した結果、生産者からは前年度より「葉が厚くなった」「下位等級が少なくなった」などの CO<sub>2</sub>施用効果を確認することができました。

なす研究会では、あぐりログにより温度管理や CO<sub>2</sub>濃度が「見える化」され、設定値とのずれやハウス内環境の偏りが把握できるようになったとともに、意見交換会を通じて草勢に応じた温度管理の意識が高まり、草勢維持を図ることができました。

### 2 今後の展開

なす研究会員が所属する J A 愛知西なす協議会内では、現在 22 台のあぐりログが導入されています。また、今年度の農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業により、あぐりログに接続できる土壌水分計を導入し、効率的かつ効果的な土壌水分管理の検討を計画しています。

グループ内の土壌水分データを「見える化」して共有し、特に若手生産者の水分管理技術の向上に役立てて、高収量・高品質を目指します。

## 企業経営視点で、野菜を買うサイフが変わる

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

6月25日（火）、NPO法人農業情報総合研究所が主催する異業種交流セミナーにおいて、オフィスの常設冷蔵庫に野菜を届けるサービス「OFFICE DE YASAI」を展開する株式会社KOMPEITO（以下、「KOMPEITO社」という）の代表取締役CEO、川岸亮造氏による講演が行われました。KOMPEITO社によるオフィスの野菜冷蔵庫常設化への取組を紹介したいと思います。



川岸亮造氏

### 1 野菜の常設冷蔵庫

「OFFICE DE YASAI」の契約は買い切り方式で、企業は社員の人数に応じて幾つかのプランを選択できます。KOMPEITO社からは契約分の商品が届けられ、企業は契約額から社員が支払う分を差し引いた金額を負担することになります（図1）。契約は企業との間で行いますが、オフィスでは社員が安価な社内価格で、常設冷蔵庫から「欲しい商品を欲しい時」に購入できる仕組みとなっています。

オフィスに無料で貸し出される常設冷蔵庫には週に2回、商品が補充・回収されます。商品は全てサラダ、スムージー、パスタ等の「すぐに食べられる形態」に加工しており、「若い人が気軽に手に取れる」ことを重視しています。

【例】社員18名のオフィスで、1人1日1個を月20日程度、購入したとして

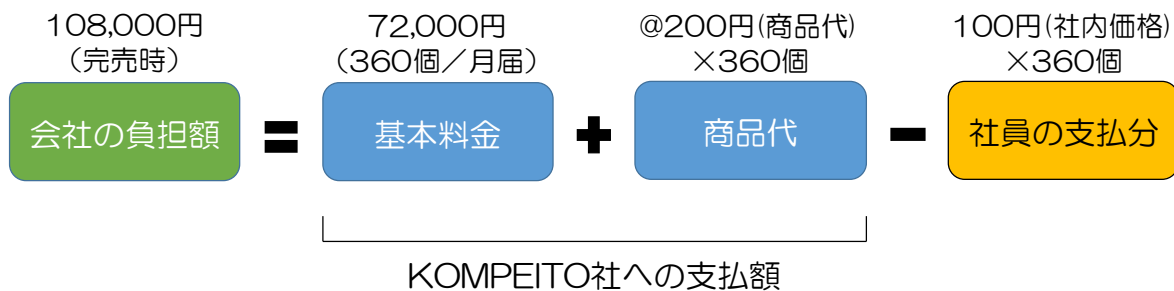


図1 KOMPEITO社のビジネスモデル（講演資料を一部修正）

### 2 この仕組みが成り立つ理由

企業が「OFFICE DE YASAI」を導入するメリットとしては、「リスク管理」や「生産性向上」などがあります。社会的にも社員の健康やメンタル面への配慮が求められる中、健康に対する興味が薄い層に「野菜を食べること」を習慣づけることができ、社員の健康に繋がることが期待されます。また、社員のコンディションを整え、ベストパフォーマンスを引き出せる環境を作ることで、生産性向上に繋がられるという思惑もあります（図2）。

現在、「OFFICE DE YASAI」は、多くの会社・職種で導入が進んでいますが、大手企業の小規模な営業所や子会社などで福利厚生として利用されるケースも増えているそうです。

$$\text{生産性} = \frac{\text{成果 (人数} \times \text{時間} \times \text{コンディション} \times \text{業務効率)}}{\text{投入資源 (人数} \times \text{時間)}}$$

※生産性は、**良いコンディション**や、**効率的な組織**、であることも重要

図2 健康経営の考え方（講演資料より抜粋）

### 3 野菜を買うサイフを変える

KOMPEITO社は、市場（顧客）を企業のオフィスとすることで、サイフの持ち主を「個人」から「企業」に、サイフの名目を「食べ物」から「組織の健康推進」に変えています。

組織の健康推進という後押しのもと、社員は既存のコンビニや量販店と比較して割安な「OFFICE DE YASAI」の商品を手に取ります。KOMPEITO社にとっては、企業のリスク管理・健康経営という強い名目のサイフ（顧客）を手に入れることとなります。



常設冷蔵庫イメージ  
(webページより)

### 4 野菜を買う行動で、農業は盛り上がる

野菜の売上を伸ばしたい場合、「①単価を上げる」「②数量（需要）を増やす」ことが必要ですが、良い物を作り付加価値を高めて単価を上げても、購買層は限られます。また、需要を増やす手法にしても、経済的な理由で消費が少ない層や、元々食べる習慣のない層に野菜消費を定着させることは困難です。

こうした中、「OFFICE DE YASAI」は野菜を買うサイフを変えることで、これまで健康や野菜に興味の無かった層に行動を促し、価格を下げずに需要を広げること的成功しています（図3）。今後、「OFFICE DE YASAI」の導入による社員の健康増進効果や生産性向上が広く認知されれば、野菜の消費拡大に向けた有効な手法になると思われます。

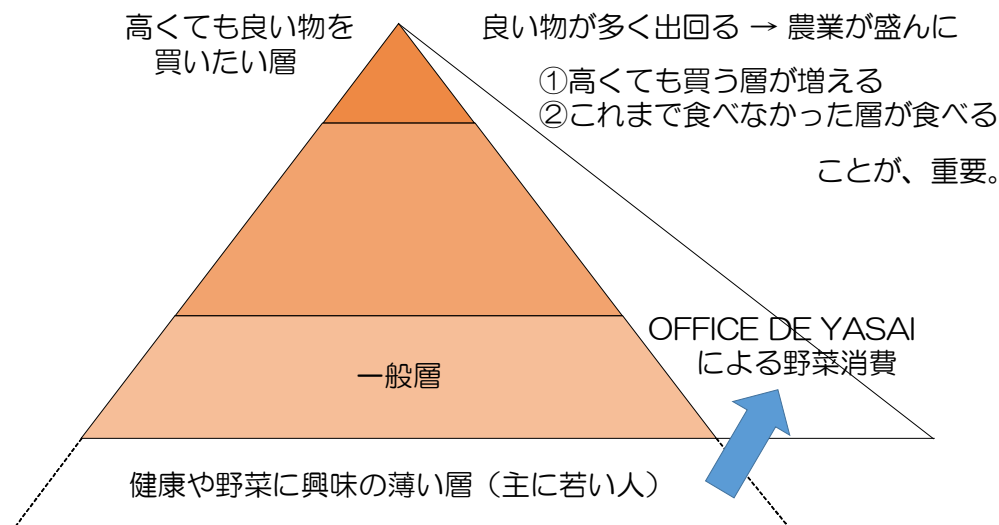


図3 購買層のピラミッド（講演資料を一部修正）



## あいちの豚肉応援フェアを開催しました

食育消費流通課

愛知県では、豚コレラの発生に係る風評被害に対して、県産豚肉の安全性と豚肉の美味しさを広く発信し、消費者の不安解消と消費拡大を図るための取組を進めています。

令和元年6月23日（日）、金山総合駅連絡通路橋イベント会場において、畜産関係団体と連携して、「あいちの豚肉応援フェア」を開催し、豚肉や豚肉製品の安全性と美味しさをPRしました。

## 1 あいち産豚肉消費拡大実行委員会について

## (1) 設立目的

愛知県では、畜産関係団体等と連携して、豚コレラに関する正しい知識の普及啓発や県産豚肉の消費拡大のためのPR活動を行うことを目的に、「あいち産豚肉消費拡大実行委員会」を平成31年3月に設立しました。

今回の「あいちの豚肉応援フェア」は、本実行委員会の主催により開催されました。

## (2) 構成員

愛知県、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県畜産協会、愛知県養豚協会、愛知県養豚農業協同組合、愛知県食肉事業協同組合連合会

## 2 開催内容

## (1) ステージイベント

ステージイベントでは、大村秀章愛知県知事らによる「豚肉応援宣言」セレモニーや安城市出身の料理研究家である寺田真二郎さんによる豚肉アレンジ料理伝授トークショーなどを実施しました。

「豚肉応援宣言」では、大村知事のほか、神野博史愛知県議会議長、豚コレラの被害を受けた瀬戸市、豊田市、田原市の代表者、畜産団体の代表者などが登壇し、県産豚肉の安全性と消費拡大PRを行いました。壇上では、県産豚肉料理の試食のほか、4月に川崎市で東三河食材の魅力を伝えるマルシェを開催し、その中で県産豚肉の安全性をPRした「東三河ほんもの伝え隊」の代表者によるイベント収益金の寄付贈呈などが催されました。セレモニーの最後には、大村知事が「あいちの豚肉を、みんなで食べて、応援しましょう！」と県産豚肉の消費拡大を強く呼びかけました。



東三河ほんもの伝え隊からの寄付金贈呈



ステージ登壇者による豚肉応援宣言

寺田真二郎さんの豚肉アレンジ料理伝授トークでは、県産豚肉を使ったオリジナル料理「やわらか！バーベキュー角煮」の作り方や家庭での豚肉調理のポイントなどが紹介されました。バーベキュー角煮は、トークショー後に来場者にも試食提供され、「美味しい」「豚肉が柔らかい」などの感想が聞かれました。また、この料理は「豚肉応援宣言」セレモニーにおいてステージ登壇者の皆さんにも振る舞われました。

## (2) 豚肉製品の出展販売

展示販売ブースでは、豚コレラの被害を受けた3市を始め、県内各地から9事業者が出展し、ハムやベーコン、ウィンナーといった豚肉製品を紹介・販売しました。商品には県内の養豚農家が生産した銘柄豚を使った加工品も多く、来場者に県内各地の豚肉をPRすることができました。

## (3) その他

会場内では、豚肉消費を応援するためのグッズ配布を行い、豚肉製品の購入者向けに保冷バッグやカッティングマット（簡易まな板）を、会場でのアンケート回答者向けにウェットティッシュや絆創膏などを配布しました。また、銘柄豚や豚肉が食卓に並ぶまでの流通経路、お肉全般の情報を紹介する各種パネル展示やパンフレット設置を行い、豚肉及び畜産に関する情報発信をしました。

## 3 今後の取組

あいち産豚肉消費拡大実行委員会では、今回の豚肉応援フェア以外にも、豚コレラの風評被害防止チラシの配布や、県内各地におけるイベントでの豚肉の試食提供など、県産豚肉の安全性及び消費拡大PRに向けた取組を行っています。

また、今後は7月から11月にかけて、県内各地での豚肉料理の試食などを中心としたイベントキャラバンを計画しています。レジャー施設や農業関連施設など、多くの人が集まる場所をキャラバンカーが訪問し、県産豚肉のPRを行う予定です。

実行委員会では、これらの取組を通して引き続き県産豚肉の安全性に係る広報活動と消費拡大PRを行い、消費者の不安解消と県産豚肉の消費拡大を図り、養豚農家の経営再建を支援していきます。



バーベキュー角煮の作り方を伝授



販売された豚肉製品



多くの人で賑わう販売ブース



消費拡大PRロゴ

## 小ぎくの群馬県オリジナル品種「小夏シリーズ」に新品种が登場

群馬県東京園芸情報センター

群馬県の小ぎく作付面積は17.97ha(平成29年)であり、平坦地から中山間地まで広く栽培されています。また、生産者数も185戸(平成29年)と、県内の花き生産の中で最も生産者数の多い品目となっています。このように、小ぎくは本県切花生産における主要品目のひとつであり、県農業技術センターでは需要期に安定して開花する品種の育成に取り組んできました。

※数値データは平成29年群馬県調べ

### 1 県オリジナル品種の育成

現在、県では白色品種「小夏の風」、黄色品種「小夏の月」、「小夏の星」が育成され、県内向けに普及してきました(図1)。

しかし、小ぎくは一般的に赤・白・黄色の3色を合わせた束で販売されることが多く、また、既存の赤系品種では病害に弱いなど欠点を持つものが多いといった理由から、栽培しやすく形質の良い赤色品種の育成が強く求められていました。そこで、県農業技術センターでは、7月下旬(8月盆向け)に開花し草姿に優れる赤系小ぎく新品种の育成に取り組み、「小夏の恋(仮称)」が育成されました。



図1 これまでに育成された小夏シリーズ

### 2 新品种「小夏の恋(仮称)」の特性

今回育成された新品种「小夏の恋(仮称)」は、花色は明るい赤紫色で、花房の形は円錐形をしています。草姿に優れ、茎下部からの側枝の発生が少ないため、収穫、出荷調整時の側枝除去の作業負担が軽減されるほか、束加工がしやすいなど、生産や流通・販売において優れた特性を有しています。

今回の育成により、「小夏シリーズ」に赤、白、黄色の3色の花色が揃いました。また、「小夏の恋(仮称)」は、「小夏の風(白色)」「小夏の月(黄色)」と同時期に開花するため、「小夏シリーズ」での花束加工も可能となります。

「小夏の恋(仮称)」は、現在品種登録の出願公表中であり、本格的な出荷は来年以降を予定しています。



「小夏の恋(仮称)」



## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下  
 わずか : ±2%台  
 や や : ±3～5%台  
 かなり : ±6～15%台  
 大 幅 : ±16%以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
30年実績	1,283	223 (17%)	781	528	静岡 (35%) 熊本 (19%) 高知 (13%)
元年見通し	1,200	—	780	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>作付面積は、全国的に減少傾向にある。現在は、静岡と愛知からの入荷が大半を占めているが、天候に恵まれて生育良好で、大玉傾向となっている。品質も上位等級が多く、価格は平年よりやや高値で推移している。今後は、静岡と愛知がピークを迎えるが、引き続き順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>贈答用としての需要が強く、1玉当たりの価格が高い品目であるため、果実品質の維持には特に注意してほしい。外観以上に食味が非常に重視されるため、適期収穫及び出荷時における糖度や熟度等の品質確認には十分に注意をお願いしたい。</p>		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
30年実績	2,044	604 (30%)	178	211	沖縄 (23%) 静岡 (19%) 神奈川 (18%)
元年見通し	2,400	—	140	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年は、酷暑に加えて7月から頻発した台風の接近・上陸で入荷を大きく減らし、総入荷量は前々年を大幅に下回った。価格は高値が続いた前々年を大幅に上回った。本年も愛知をはじめ沖縄、静岡、神奈川などからの入荷となり、5月は乾燥傾向で推移したが、肥大は今後の天候次第となるか。沖縄を中心とした年明けの高値は早々に終息し、徐々に単価を下げてきた。5月に入り愛知、静岡が始まっている。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>			<p>スマートフォンの普及でレシピ検索が容易となり、インターネット上のレシピも豊富な状況にある中、一般家庭向けの利用方法について積極的な提案を量販店等に行い、売場で紹介してほしい。 愛知産については品質に問題なく、これまでどおり、形や色を揃えるなど高品質の保持に努めて欲しい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	29,589	213	221	215	210	長野 27%
	27年	28,893	262	257	266	267	北海道 12%
	28年	28,282	252	254	261	245	兵庫 9%
	29年	29,911	213	216	215	208	群馬 8%
	30年	29,212	242	215	246	265	愛知 8%
	5ヵ年平均	29,177	236	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	28,600	233	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野、北海道、愛知などから入荷する。全国的に干ばつ傾向だったが、6月は降雨もあり、生育順調な品目が多い。一方で、6月下旬から7月にかけては曇雨天が続く予想で、今後の入荷は天候次第となるか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。							
だいこん	26年	1,557	76	78	78	78	青森 60%
	27年	1,442	117	126	133	107	北海道 28%
	28年	1,349	121	147	133	101	岐阜 8%
	29年	1,316	82	86	86	83	長野 4%
	30年	1,252	118	87	142	141	
	5ヵ年平均	1,383	102	105	113	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,300	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道を中心に入荷する。両産地ともに干ばつで生育がやや遅れていたが、現在は回復して順調。今後の天候次第となるが、全体的には順調な入荷を見込む。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	26年	1,644	119	136	116	117	青森 54%
	27年	1,554	147	117	124	199	北海道 42%
	28年	1,484	165	127	169	200	兵庫 2%
	29年	1,539	98	113	98	88	千葉 1%
	30年	1,514	157	130	176	161	長崎 1%
	5ヵ年平均	1,547	137	125	136	152	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,500	135	135	135	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道を中心に入荷する。播種時期及び生育初期の干ばつにより発芽不良や生育遅れが見られた。その後は回復傾向にあり、入荷は概ね平年並となるか。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

6月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	127,260	229	238	227	223	長野 16%
	27年	122,865	274	262	289	274	群馬 16%
	28年	119,621	265	266	276	253	茨城 11%
	29年	125,225	226	233	227	218	青森 8%
	30年	117,735	269	250	266	292	北海道 7%
	5ヵ年平均	122,541	252	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	122,000	245	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
各品目ともに春先の低温や5月の干ばつなどの天候不順の影響からは概ね脱する。果菜類では日照不足の懸念があるも、月の後半に向けて潤沢な出回りが予想される。入荷量は前年をやや上回り、価格は相場を上げた前年をかなり下回る見込み。							
だいこん	26年	9,212	76	81	72	74	北海道 52%
	27年	9,437	108	121	116	94	青森 41%
	28年	8,283	119	149	122	96	群馬 3%
	29年	8,891	76	83	71	74	岩手 2%
	30年	7,148	121	89	136	138	千葉 1%
	5ヵ年平均	8,594	99	105	102	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,200	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森からの入荷が中心となる。北海道、東北産地ともに5、6月の少雨により肥大と生育に遅れがでている。一時的に数量を減らしそうだが、後半には遅れも解消し数量は出揃うと見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は端境後は下げて前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	26年	6,895	114	121	109	112	青森 49%
	27年	6,843	134	110	114	189	北海道 28%
	28年	6,133	150	110	157	191	千葉 18%
	29年	6,562	100	112	99	89	中国 3%
	30年	5,886	145	118	156	161	埼玉 1%
	5ヵ年平均	6,464	128	114	126	148	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	6,000	130	120	130	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道、千葉からの入荷がほとんどを占める。主力の青森は3月末の降雪で播種が遅れた影響が残る。加えて、各地で乾燥傾向が続いたため、入荷は少なくなると見込まれる。入荷量は少なかった前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

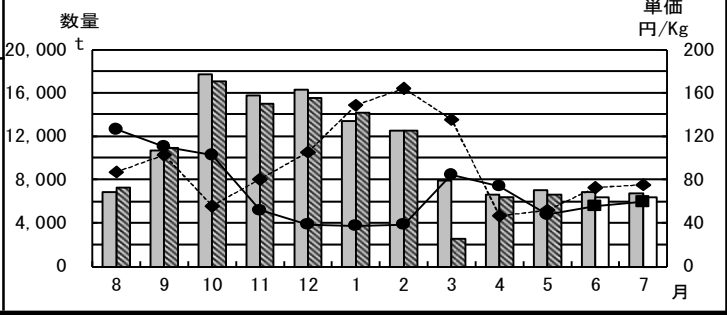
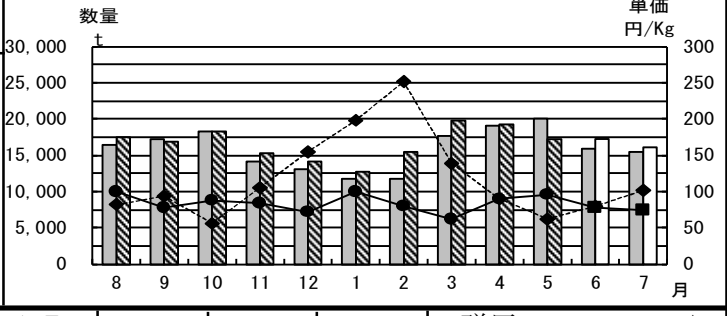
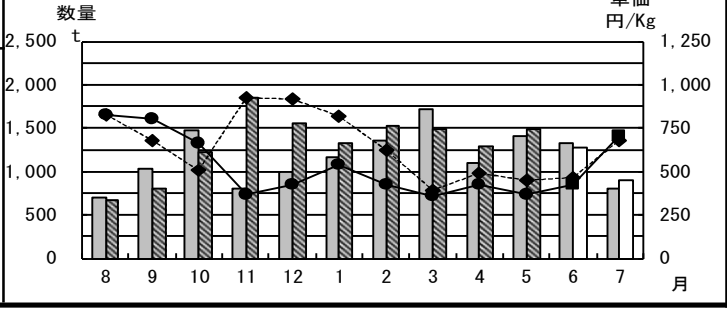
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	26年	1,650	64	78	59	64	長野 100%
	27年	1,413	83	80	77	98	
	28年	1,673	53	54	59	56	
	29年	1,808	52	47	52	58	
	30年	1,616	77	66	68	105	
	5ヵ年平均	1,632	65	64	62	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,650	70	70	70	70	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。干ばつにより生育は遅れ気味だったが、その後は雨が降り、好天にも恵まれたため、回復している。入荷も順調となる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						
キヤベツ	26年	4,227	72	81	66	75	群馬 56%
	27年	4,009	95	92	86	107	長野 29%
	28年	4,136	77	75	82	80	茨城 8%
	29年	4,486	64	68	61	66	北海道 3%
	30年	3,821	102	91	87	130	愛知 2%
	5ヵ年平均	4,136	81	81	76	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,000	90	90	90	90	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。群馬は前年の入荷がやや少なかったが、本年は生育順調。長野も順調で、入荷量は両産地ともに前年を上回るか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						
ほうれんそう	26年	183	617	569	667	662	岐阜 84%
	27年	183	709	677	701	725	茨城 6%
	28年	182	701	714	748	673	長野 3%
	29年	186	637	592	689	656	静岡 2%
	30年	161	725	655	744	841	愛知 2%
	5ヵ年平均	179	676	641	709	708	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	195	630	630	630	630	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>岐阜の飛騨地域を中心に入荷する。岐阜は曇雨天が多く、現在の入荷は落ち着いている。7月の見通しは天候次第となるが、回復傾向もあり、入荷量はやや少なかった前年を上回るか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						



東京都中央卸売市場

6月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
ほうき	26年	5,955	66	75	57	63	長野 88%
	27年	5,783	81	76	71	95	群馬 9%
	28年	5,783	54	54	53	茨城 2%	
	29年	6,679	55	50	53		
	30年	6,736	75	63	61	108	
	5ヵ年平均	6,187	66	63	59	76	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	6,500	60	65	60	55	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。ここまでの低温により5日程度の遅れがでていたが解消に向かう。今後の天候にもよるが概ね生育良好。 入荷量は潤沢だった前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キヤベツ	26年	16,028	69	80	66	64	群馬 72%
	27年	15,612	91	89	82	99	岩手 12%
	28年	16,232	73	73	75	70	長野 8%
	29年	16,597	59	68	57	54	茨城 3%
	30年	15,476	102	85	84	137	千葉 2%
	5ヵ年平均	15,989	78	79	73	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	16,000	75	75	75	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬中心に岩手などから入荷する。群馬は低温乾燥など天候不順の影響を受けるも回復。最近は適度な雨をもらい生育状況は順調。岩手も先月下旬より順次出荷が始まり、数量を増やす。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値基調だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	26年	972	617	552	640	677	群馬 33%
	27年	990	660	589	717	698	栃木 27%
	28年	923	618	640	612	602	茨城 16%
	29年	958	565	459	643	626	岩手 9%
	30年	803	677	542	724	818	岐阜 5%
	5ヵ年平均	929	626	556	666	680	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	900	700	650	650	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬など関東高冷地と岩手、岐阜からの入荷が中心となる。現在の生育は最近の好天に恵まれ概ね良好。一部で病害虫の報告が挙がるも、全体への影響はごくわずかに留まると見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)				
				上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	685	386	403	407	376	大分	21%
	27年	651	464	466	493	468	愛知	21%
	28年	589	463	470	517	451	静岡	14%
	29年	589	404	424	407	393	茨城	14%
	30年	524	461	433	503	450	中国	6%
	5ヵ年平均	608	434	439	463	426	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	550	450	450	450	450		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>普通ねぎは愛知、茨城が中心となる。両産地ともに生育順調で、愛知は前年以上、茨城は前年並の入荷を見込む。白ねぎは大分、静岡、茨城を中心に入荷し、こちらも各産地ともに順調な入荷を見込む。 入荷量はやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
し	26年	2,780	151	154	150	164	長野	99%
	27年	2,409	189	159	200	221	愛知	1%
	28年	2,384	134	139	146	133		
	29年	2,478	122	111	126	131		
	30年	2,687	156	122	137	211		
	5ヵ年平均	2,548	150	137	151	172	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	2,500	140	120	130	150		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。生育初期に干ばつの影響を受けたが、その後は適度な雨もあり、順調な入荷を見込む。入荷のピークは上中旬からとなるか。 入荷量は前年をかなり下回るものの前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
きゅうり	26年	1,396	247	249	254	244	長野	56%
	27年	1,242	296	295	323	280	北海道	17%
	28年	1,316	325	354	347	280	愛知	5%
	29年	1,434	269	257	282	268	岩手	3%
	30年	1,438	350	291	390	363	茨城	3%
	5ヵ年平均	1,365	297	288	319	288	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	1,400	320	310	320	330		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、北海道の夏秋作を中心に、愛知や東北産地などから入荷する。長野、北海道は天候にも恵まれ前進傾向。順調な入荷を見込む。愛知は前年より早く終盤を迎えており、7月の入荷は少ないか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

6月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	4,338	379	427	372	339	茨城 55%
	27年	4,313	483	535	493	433	千葉 14%
	28年	4,263	450	477	504	384	中国 5%
	29年	4,155	410	475	390	371	埼玉 5%
	30年	3,978	413	382	430	409	福岡 3%
	5ヵ年平均	4,209	427	460	438	387	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,200	360	380	370	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に千葉、埼玉などからの入荷となる。干ばつ等の影響は回復傾向。平年並の入荷が見込まれるが、乾燥の影響かアザミウマ被害が散見され、品質が気になるところ。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
し	26年	9,647	132	157	159	172	長野 84%
	27年	9,064	197	164	207	219	群馬 14%
	28年	10,020	130	131	136	123	茨城 1%
	29年	9,867	110	97	114	119	
	30年	9,795	149	107	127	218	
	5ヵ年平均	9,679	143	131	148	169	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	9,700	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、群馬などから入荷する。主力となる長野は、適度な降雨により大玉傾向。気温の上昇とともに入荷は安定し、潤沢な出回りを見込む。長野が増量し、群馬はピークを過ぎる。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	7,736	209	216	218	199	福島 41%
	27年	7,343	268	250	291	264	岩手 14%
	28年	6,835	324	366	355	262	秋田 9%
	29年	7,255	248	241	262	241	千葉 7%
	30年	7,448	355	312	441	323	山形 6%
	5ヵ年平均	7,323	280	275	312	257	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,200	270	290	270	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手など東北産地からの入荷に切り替わる。果菜類は5、6月の天候不順を引きずる。それでも主力の福島が最盛期を迎えるため、価格は軟調で推移する。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

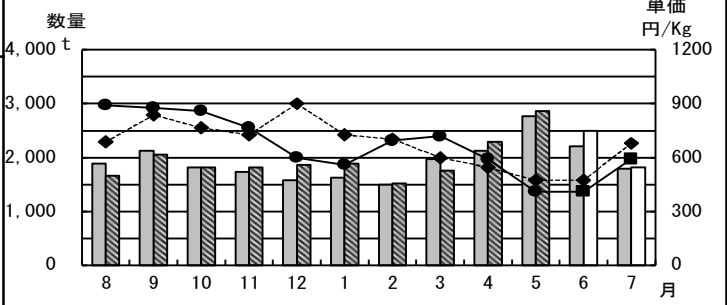
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	947	271	260	279	279	愛知 39%
	27年	931	337	332	380	322	宮崎 13%
	28年	889	318	315	320	321	徳島 13%
	29年	961	264	270	252	275	山梨 10%
	30年	874	322	312	331	331	茨城 7%
	5ヵ年平均	920	302	297	312	305	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	900	305	285	320	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、徳島、宮崎などから入荷する。夏秋作は今までの高温で前進傾向だったが、梅雨の曇雨天での花落ち等も予想される。入荷量は概ね平年並の見込みだが、愛知や徳島では少なかった前年を上回るか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ト マ ト	26年	1,442	300	296	317	293	岐阜 35%
	27年	1,451	311	302	358	295	愛知 27%
	28年	1,308	335	330	349	333	北海道 15%
	29年	1,602	261	254	255	272	熊本 8%
	30年	1,639	313	271	307	358	三重 6%
	5ヵ年平均	1,488	303	289	315	310	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,600	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜、愛知、北海道を中心に入荷する。各産地の夏秋作はともに天候にも恵まれ、生育順調。梅雨の曇雨天の影響次第だが、前年同様の順調な入荷となるか。中下旬には夏秋作の入荷ピークを迎える見込み。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	26年	388	560	541	554	582	北海道 41%
	27年	409	610	542	643	633	愛知 28%
	28年	384	701	623	786	715	熊本 11%
	29年	497	602	585	624	596	茨城 10%
	30年	409	720	655	712	789	長野 5%
	5ヵ年平均	417	637	589	662	660	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	400	650	600	700	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、愛知を中心に入荷する。6月前半は数量の多かった前年以上の入荷ペースとなった。7月は、北海道と愛知の夏秋作がともに天候に恵まれ順調。梅雨の天候次第だが、概ね平年並の入荷となるか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	4,731	308	327	337	266	群馬 33%
	27年	4,474	369	422	439	297	茨城 23%
	28年	4,273	372	393	378	348	栃木 22%
	29年	5,077	288	314	280	273	埼玉 5%
	30年	5,111	345	343	365	328	岩手 3%
	5ヵ年平均	4,733	335	357	358	302	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,600	360	380	380	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>栃木、群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。主力となる関東各産地の生育が遅れており、量のまとまる下旬までは高値傾向となるか。乾燥で病害は少ないが、アザミウマ等の被害が散見される。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回るが下旬以降崩れる見込み。</p>					
マ ト	26年	8,707	300	317	310	281	青森 15%
	27年	8,934	297	306	345	268	北海道 14%
	28年	7,861	322	301	333	332	岩手 12%
	29年	8,742	272	285	274	259	栃木 11%
	30年	8,158	333	303	339	356	群馬 7%
	5ヵ年平均	8,480	304	302	320	298	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	8,500	300	300	310	290	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北、北海道からの入荷が本格化し、関東とともに入荷の中心となる。関東産地は落ち着き、東北・北海道が量を増やす。前年は入荷が少なく高値基調に傾いたが、本年も天候次第では高値の動きを見せるか。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミ ト	26年	1,726	537	506	568	540	茨城 24%
	27年	1,823	558	506	601	577	青森 12%
	28年	1,606	658	560	718	687	千葉 12%
	29年	1,952	554	533	574	557	福島 11%
	30年	1,769	674	643	646	731	北海道 10%
	5ヵ年平均	1,775	594	549	619	616	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,800	590	590	590	590	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道などからの入荷となる。茨城は来月のピークに向け増量中。一時期、曇雨天の影響が懸念されたが、生育、開花ともに順調。一部にアザミウマ被害が発生している。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	526	295	326	318	263	茨城 35%
	27年	446	446	388	481	492	北海道 17%
	28年	408	421	378	445	422	宮崎 16%
	29年	430	356	351	370	368	高知 15%
	30年	311	515	481	507	523	長野 5%
	5ヵ年平均	424	396	377	415	401	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	390	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、宮崎などから入荷する。茨城は終了に向かうが、数量は前年並か。前年の入荷量が少なかった北海道は中下旬には出揃い、数量は平年並の予想。価格は前年高騰したが、本年は平年並となるか。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	26年	1,554	136	142	150	146	静岡 42%
	27年	1,690	244	296	287	218	長崎 20%
	28年	1,403	188	214	204	182	北海道 19%
	29年	1,270	149	152	170	135	青森 9%
	30年	1,685	80	67	84	91	愛知 6%
	5ヵ年平均	1,520	159	175	179	155	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,430	145	145	145	145	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、北海道、長崎などから入荷する。静岡は生育順調で、全体的に前倒し傾向。今後入荷の中心となる北海道も前年並の入荷量を見込む。長崎は6月でほぼ終了し、7月入荷は前年より少なくなるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	26年	3,626	110	107	110	112	兵庫 59%
	27年	3,636	154	154	155	156	北海道 19%
	28年	3,516	159	162	178	156	愛知 10%
	29年	4,088	85	90	88	81	徳島 6%
	30年	4,532	88	80	99	93	富山 3%
	5ヵ年平均	3,880	117	116	124	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,200	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫を中心に北海道、愛知などから入荷する。兵庫の淡路島産は作柄良好で、L玉中心の潤沢な入荷見込み。北海道は干ばつ気味だったが、その後は降雨もあり順調。終盤の愛知は前年並の入荷量を見込む。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をわずかに上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	2,099	284	313	287	247	茨城 56%
	27年	1,900	412	345	461	445	岩手 26%
	28年	1,792	416	378	455	414	福島 9%
	29年	1,968	358	356	340	377	青森 4%
	30年	1,789	492	500	485	491	宮崎 2%
	5カ年平均	1,910	388	375	401	390	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,900	400	410	410	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。茨城は春先の低温の影響が5月の好天により解消するも、入荷は不安定で堅調な相場となる。露地物も始まるため、後半は安定し価格は下がる方向へ。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は品薄となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
白菜	26年	5,899	136	132	138	140	静岡 32%
	27年	5,627	229	264	243	182	茨城 27%
	28年	5,613	173	180	174	164	長崎 15%
	29年	5,506	136	152	138	117	千葉 14%
	30年	5,447	73	71	74	74	北海道 6%
	5カ年平均	5,618	150	160	154	136	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	5,600	145	145	145	145	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉、静岡、長崎からの入荷が中心となる。各産地とも作柄良好との報告があるも、低温による生育遅れ、一部で乾燥による小玉傾向がみられ、前月の品薄感を引きずる。</p> <p>入荷量は前年をわずかに上回り、価格は記録的安値の前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	26年	9,198	120	115	119	127	佐賀 35%
	27年	9,262	163	153	172	164	兵庫 34%
	28年	8,086	171	154	178	180	香川 12%
	29年	8,876	94	102	95	87	愛知 4%
	30年	8,958	94	88	92	101	富山 3%
	5カ年平均	8,876	128	122	131	131	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	9,800	90	85	90	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、佐賀、香川からの入荷が中心となる。他品目と対照的に天候によるマイナス影響は少なく順調な生育となる。大玉比率が高く豊作基調となるも、出荷調整により価格は堅調か。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は出荷調整次第だが前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	10,541	345	351	336	340	フィリピン 16%
	27年	9,121	400	385	391	421	愛知 14%
	28年	8,411	430	405	424	461	長野 14%
	29年	7,766	443	435	439	461	石川 8%
	30年	8,192	444	442	437	456	山梨 8%
	5ヵ年平均	8,806	408	400	401	423	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,800	430	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>もも、すいか、ぶどう、メロンなどを中心に入荷する。全体的に生育順調だが、前進傾向だった前年よりやや遅い。ももは入荷も本格化し、数量は前年並を見込む。ぶどうは引き続きシャインマスカットが増加傾向。入荷量と価格はともに前年をやや下回る見込み。</p>						
アーメロン	26年	250	537	—	—	—	愛知 46%
	27年	227	583	—	—	—	静岡 37%
	28年	197	668	—	—	—	高知 11%
	29年	202	641	—	—	—	茨城 3%
	30年	164	656	—	—	—	熊本 2%
	5ヵ年平均	208	611	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	165	650	—	—	—	
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、静岡を中心に入荷する。好天に恵まれており、生育順調で大玉傾向。品質も上位等級が多い。作付面積は減少傾向で、アールスから他のメロンに品目を変更する生産者も見られる。入荷量と価格はともに前年並を見込む。</p>						
すいか	26年	3,732	123	131	109	133	長野 30%
	27年	2,767	140	120	123	182	石川 24%
	28年	2,603	192	172	183	224	愛知 17%
	29年	2,343	195	179	190	224	山形 13%
	30年	2,713	217	211	216	225	新潟 7%
	5ヵ年平均	2,832	169	160	159	192	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,550	190	180	190	220	
すいか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、石川、愛知などから入荷する。前進した前年に比べると少し遅いが、各産地ともに生育順調。やや遅れた分、長野では入荷量が前年並～若干減となるか。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						



東京都中央卸売市場

6月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	39,571	354	422	345	349	山梨 17%
	27年	38,282	374	385	374	367	山形 15%
	28年	34,883	419	407	429	420	千葉 8%
	29年	32,851	467	467	461	473	フィリピン 7%
	30年	33,742	465	488	465	448	新潟 6%
	5ヵ年平均	35,866	416	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	33,000	460	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、もも、メロンなどを中心に入荷する。全体的な生育は、早かった前年と比較して遅れるも平年並か。ギフト需要が見込まれ、価格も堅調の見込み。今後は梅雨明け時期や気温上昇を注視する必要あり。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。						
アールスメロン	26年	698	591	621	614	623	静岡 55%
	27年	660	672	717	653	631	茨城 14%
	28年	582	740	777	780	649	千葉 10%
	29年	573	767	805	770	713	高知 9%
	30年	491	788	850	772	733	愛知 8%
	5ヵ年平均	601	712	754	718	670	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	460	790	870	770	730	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、千葉、茨城を中心に入荷する。中心となる静岡は玉伸び、内容ともに良いが生産者減による入荷減を見込む。千葉は中元ギフト向けに平年並の入荷、茨城は旧盆向けで7月はやや減少するか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。						
すいか	26年	14,695	140	153	138	134	山形 26%
	27年	14,842	154	140	143	170	新潟 16%
	28年	12,509	194	176	192	206	千葉 15%
	29年	11,336	222	205	221	240	神奈川 12%
	30年	12,458	231	249	235	215	長野 10%
	5ヵ年平均	13,168	188	185	186	193	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	12,000	210	230	220	180	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本が終了に向かう一方、鳥取や新潟に続き長野の入荷が始まる。千葉は5月の天候不順で入荷が少ない。山形は生育順調もやや遅れがみられる。梅雨明けが遅れる場合、引き合いは弱くなるか。 入荷量は前年をやや下回り、前年をかなり下回る見込み。						

# 切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	26年	2,091	31	
		27年	2,088	39	
		28年	1,772	49	
		29年	1,781	38	
		30年	1,377	44	
	5ヶ年平均	1,822	40		
元年見通し	1,500	35			
概要	愛知、三重、長野から入荷する。長野の露地物の入荷も始まり増加してくる。前月からの低迷を引きずり、動きは重い。新盆需要に期待。				
小 ぎ	実績	26年	2,408	15	
		27年	2,231	23	
		28年	1,739	31	
		29年	1,549	27	
		30年	1,491	32	
	5ヶ年平均	1,884	25		
元年見通し	1,500	27			
概要	愛知、埼玉、奈良に加えて長野、岩手からも入荷する。一般需要の動きは鈍く、軟調な見通し。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	26年	1,086	40	
		27年	1,139	44	
		28年	1,060	42	
		29年	1,090	35	
		30年	1,113	42	
	5ヶ年平均	1,098	41		
元年見通し	1,100	40			
概要	長野、北海道から入荷する。今年は若干遅れ気味で、上旬に山がきて販売は厳しいが、月末には戻る見通し。新盆需要に期待したい。				
か す み	実績	26年	120	84	
		27年	139	89	
		28年	126	88	
		29年	120	80	
		30年	100	107	
	5ヶ年平均	121	89		
元年見通し	120	85			
概要	長野、福島から入荷する。前年より多い入荷で、一般及び業務の引合いは弱く、厳しい販売が予想される。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	26年	404	125	
		27年	383	146	
		28年	325	156	
		29年	342	131	
		30年	293	148	
	5ヶ年平均		349	140	
	元年見通し		300	140	
概要	<p>オリエンタルは新潟、北海道、岐阜などから入荷する。LAは新潟、埼玉からの入荷。鉄砲は兵庫と長野から、中旬以降は愛媛から入荷する。前年同様の入荷量となる見込み。需要は少なく、厳しい販売となる。</p>				
洋	実績	26年	362	90	
		27年	392	92	
		28年	314	99	
		29年	296	92	
		30年	340	83	
	5ヶ年平均		341	91	
	元年見通し		330	85	
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島国内産や輸入物などが入荷する。国内産は静岡を中心に増加してくるが、輸入物は台湾産が徐々に減少していく。</p>				
ば	実績	26年	783	44	
		27年	770	50	
		28年	770	44	
		29年	707	42	
		30年	665	50	
	5ヶ年平均		739	46	
	元年見通し		700	45	
概要	<p>愛知、岐阜、和歌山、長野を中心に入荷する。準高冷地から高冷地（山形）まで出荷が始まる。一方で三重は夏休み（株休み）に入り、多少入荷に影響があるとみられる。</p>				
枝	実績	26年	1,753	41	
		27年	1,848	44	
		28年	1,610	46	
		29年	1,542	48	
		30年	1,423	47	
	5ヶ年平均		1,635	45	
	元年見通し		1,450	45	
概要	<p>栽培物を中心に、愛知、静岡、長野から入荷する。山取りのドウダンは人気が高く、堅調。人気のあるユーカーリは新芽の影響で軟調か。天候に左右されるところもあるが、全般には堅調な動きとなる見込み。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
フェアレノブ	実績	26年	29,176	3,235	
		27年	25,346	3,528	
		28年	23,506	3,435	
		29年	27,379	3,567	
		30年	27,245	3,082	
	5ヶ年平均		26,530	3,363	
	元年見通し		27,000	3,074	
概要	<p>入荷量は前年並か。商品の輪数によって価格の変動が大きい。株主総会、人事異動の兼ね合いで輪数の多い高額商品の需要が高くなる見込み。ミディーに関してはお中元用として下旬に需要がある見込み。気温が高く開花スピードも速いため、6分咲き程度の固めでの出荷をお願いしたい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(55.6%)、2位静岡(9.9%)、3位宮崎(6.5%)となっている。</p>				
スパティ	実績	26年	9,733	315	
		27年	10,594	340	
		28年	5,201	417	
		29年	2,526	623	
		30年	4,823	381	
	5ヶ年平均		6,575	372	
	元年見通し		4,800	350	
概要	<p>入荷量は前年並か。5号以上は生産者に限られており、生産の中心は3~4号中心で、高値販売が厳しいために平均単価は自然と下がる見込み。前年は7月以降が高温であったため、今年も7月前半が勝負と思われる。3~4号の売れ行きは厳しい予想であるが、6号以上のサイズで花上がりが多い物の需要に期待したい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(38.0%)、2位愛知(31.0%)、3位岐阜(30.8%)となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	26年	12,030	109	
		27年	14,415	126	
		28年	11,294	116	
		29年	14,260	121	
		30年	11,825	79	
	5ヶ年平均		12,765	111	
	元年見通し		11,000	82	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少するか。気温の高い時期になるため、花持ちの問題から販売も厳しく苦戦を強いられる傾向が強い。岐阜、愛知を中心に3~3.5号メインの入荷になる見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(53.2%)、2位愛媛(32.4%)、3位愛知(9.5%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	26年	36,589	833	
		27年	28,200	736	
		28年	22,419	669	
		29年	22,821	754	
		30年	19,351	797	
	5ヶ年平均		25,876	764	
	元年見通し		19,300	798	
概要	<p>入荷量は前年並か。愛知が中心ではあるが輸入原木の減少から主要品目は少なくなると思われ、作付けをフィカス類などに移行する動きもある。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（62.2%）、2位沖縄（13.2%）、3位福岡（10.8%）となっている。</p>				
アンズ	実績	26年	24,000	958	
		27年	24,357	1,053	
		28年	21,512	1,136	
		29年	20,548	1,091	
		30年	21,592	1,078	
	5ヶ年平均		22,402	1,060	
	元年見通し		21,500	1,070	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付けは例年通り大きな変更はなく、6号、7号サイズが主体での入荷を見込む。MIXでの入荷が多いが、色別では赤・ピンク・白が主体で、白の引き合いが強いと思われる。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（96.5%）、2位長崎（2.0%）、3位滋賀（0.4%）となっている。</p>				
オンシジウム	実績	26年	1,591	789	
		27年	1,688	616	
		28年	1,837	940	
		29年	2,362	535	
		30年	1,446	633	
	5ヶ年平均		1,785	695	
	元年見通し		1,400	600	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少するか。生産者の高齢化が進み、生産量自体が減少していることが要因とみられる。猛暑による花数の減少により、入荷量は若干減少する見込み。温度が高い中で開花速度も速くなるため、固めでの出荷をお願いしたい。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（46.6%）、2位高知（27.0%）、3位長崎（23.9%）となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.553  
令和元年7月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434